



中国野菜を作ろう

秋まき野菜の栽培時期が近づいてきました。

ここ数年前から中国野菜の生産が増加し、市内の量販店や八百屋さんの店頭にも、見かけるようになりまし。食生活の豊かさが求められ、野菜類の多品目、多様性の消費が進んでいます。

家庭菜園のなかにも、中国野菜を栽培して、新鮮な味を食卓にのせてみてはいかがでしょう。

中国野菜のなかで消費の多い「タアサイ」、「チンゲンサイ」の栽培のポイントを紹介します。

●タアサイ

中国野菜で生産の最も多い野菜で、有機質に富む、保水力のあるところに適します。しかし、土壌の酸性があまり強いと生育がよくないので、あらかじめ一〇平方メートルあたり堆肥四〇キログラム、苦土石灰一十

キログラムを入れて、土づくりと酸性の中和をしておきます。肥料は、は種の三〜五日前に化成肥料を一五〇キログラムを入れます。

は種後二週間程度で、本葉二〜四枚になりますので間引を始め、最終株間を二十四センチにします。間引後は葉の色をみながら、ときどき追肥をします。

は種は、栽培の方法によって遅くまでまくことができますが、秋まきとしては、九月上旬ごろまでにまくとよいでしょう。一般には、じかまきが多いのですが、苗を育てて移植する方法でも差支えありません。

●チンゲンサイ

「タアサイ」に次いで栽培の多い野菜で、「中国バクチョイ」と同じ仲間で、葉柄が緑色をしているものです。暑さ、湿害、病害にも

強く作りやすい種類です。

は種の方法は「タアサイ」の項に準じて栽培しますが、最終株間を十五センチ程度とします。乾燥には強いものですが、あまり乾くようであれば、かん水をするこことよって軟らかい良いものが収穫できます。また、生育途中に肥切れしないように、追肥をするとうい

しよう。

は種は、九月下旬までできますので、一度に大量に作るのではなく、十日〜十四日程度づつは種期をずらせば、順番に収穫ができますよとい思います。

なお、害虫からの被害を防ぐために、寒冷紗がけをするのがよいでしょう。(南国農業改良普及所



エリマキトカゲ
「こら、また傘をこわした〜ッ」

南国歌壇

施設児らの手に手に放つ風船を
点となるまで見送りていつ

西島 門田美枝子

孫の襦袢をいくたびとなく手に
ゆく 庭につけたる細きわが道

立田 島田美津子

生活に迫る日々か夫婦して
しばし黄昏の田園をみる

西島 岡林義広

念願のスイカづくりは梅雨期で
遅すぎたよと雄花悲しむ

里改田 斉藤幸満

緑なす南国平野に舟人は
農奴の詩をのせて流れる

領石 唐岩 勇

幼き日甦りくる思い出よ
涼風ゆるる今昔の花かけ

三品 小笠原綾子

南国柳壇

豆力士親が疲れる土俵きわ
添寝するひ孫寝返り目がさめた

十市 大家寿恵子

五十坂疲れをいやすしまい風呂
竹村舞賀

西山 島田稔子

十市 島田稔子

南国俳壇

遠花火少し明るい奥座敷
熱帯夜続くとぼけた五時が鳴る

大西日愚者の嘆きの中にあり
充ち足りし過去や立夏の木綿刺す

どつぶりと森林浴や夏遍路
素手で触る北回帰線青い風

野ざらしのバイクを叩く猫じやらし
些事避けてすっぽり入る蛍袋

小さくなる父あれからの枇杷熟れて

福井英子 花榜俳句会

岡田昌子 ()

楠瀬秀子 ()

馬場左枝 忍冬句会

長野扇女 ()
高村三喜子 ()
川田玉恵 (市民句会)
野口須磨子 ()
山本寿雄 ()